集落営農組織の経営安定を目指した活動支援

■　山田井営農組合　■

（西讃農業改良普及センター　糸川桂市、宮崎 勝、川上 清、山地優徳、〇佃晋太朗

加藤大貴、山本千絵　）

●対象の概要

三豊市財田町財田上の山田井地区では、地域の水利組合（吉池、尾池）を中心に、「水稲の水管理の省力化」という地域の共通課題を解決するため、「集落営農推進生産基盤整備事業」を活用してパイプライン施設の整備に取り組むことになった。集落営農組織設立に向けた話し合いを重ね、平成28年２月22日に「山田井営農組合」が設立された。

●課題を取り上げた理由

山田井営農組合の設立後は、集落営農ビジョンの重点課題である「パイプライン施設の整備」は進んでいるものの、その他の課題については、具体的な取組みが決まっていなかった。また、地域内農地の管理は、高齢化する地権者自ら行っており、将来の耕作放棄地化や、農業機械費の負担増を心配する農業者も多く、取組みの具体化が求められていた。
そこで、集落営農ビジョン実現に向けた活動を具体化するとともに、組織活動の活性化に取り組んだ。

パイプライン施設使用のルールを検討

●普及活動の経過

１　ビジョン実現に向けた活動の重点化

設立総会で採択された集落営農ビジョンの実現に向けて、取組みの重点化を図るため組合員への意向調査を実施し、調査結果をもとにポイント化し優先順位付けを行った。

総会で重点活動事項を検討

２　農業機械の共同利用に向けた取組み

「農業機械の共同利用」は、パイプライン化に次いでポイントが高い項目で、トラクター、田植機、コンバインを自ら所有している農家が多く、最近更新した農家もいることから、「農業機械の更新時は組合に相談する」、「急な病気や故障の場合には助け合う」ことを申し合わせた。また、助け合いのルールを「農作業受委託規程」にまとめ、更新時期に合わせた共同利用機械の導入への道筋をつけた。

３　園芸品目の導入支援

近年の米価下落に対応した集落営農組織の活動費確保と共同活動の推進を目的に、軽量で地域特産物であるトウガラシ「香川本鷹」の栽培実証（10a）に取り組んだ。

導入に当たっては、将来の共同生産・経理の一元化を目指して、共同栽培に取り組み、作業日誌の記録をもとに「香川本鷹」栽培の収益性と作業性の分析を行った。また、販路開拓のために６次産業化ビジネス交流フェアへの参加など販路開

拓についての支援を行った。

香川本鷹の共同収穫作業

4　水稲の安定栽培に対する支援

組合員の大半が栽培する水稲の安定生産と品質の向上を目的に、水稲栽培管理基準田を設置し栽培管理指導を行った。定期的に基準田を巡回し、水管理を中心に病害虫防除や適期の収穫指導を行うほか、収量調査や食味検査を実施した。

水稲栽培管理基準田での栽培管理指導

●普及活動の成果

1　農業機械の共同利用に向けた取組み

農業機械の更新検討の際の申し合わせにより、農業機械への投資は減少した。

また、「農作業受委託規程」の制定により、組合員同士の助け合いの仕組みが整ったことから、急な病気や機械故障時に農作業ができなくなる不安が軽減された。

2　園芸品目の導入支援

「香川本鷹」の共同栽培実証により、作業性や収益性を調査･分析し、課題を整理するとともに、改善策を提示した。

作業別の労働時間では、収穫作業が全体の半分を占め、８月の収穫作業はほぼ毎日で、本年度の出役に対する時給は、香川県の最低賃金を若干上回る結果となった。

今後の「香川本鷹」の栽培について検討の結果、出役頻度が高いことから、次年度は組織での栽培は見送ることとなったが、共同栽培と一元経理のノウハウを蓄積と共同作業による集落のコミュニティー醸成を図ることができた。

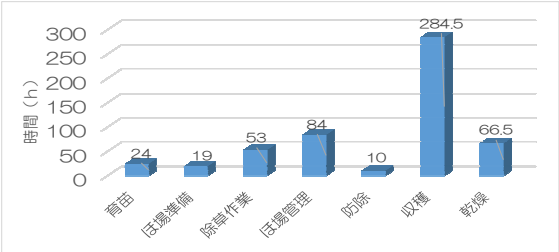

図１　トウガラシの作業別労働時間

3　水稲の安定生産支援

パイプライン化により、細やかな水管理が可能になり、栽培管理基準田を通じて水管理・適期防除・収穫時期の指導などにより、前年の単収420kg/10aを上回る466kg/10aを確保できた。
また、基準田の調査結果をもとに栽培管理講習会を開催し、基準田での栽培状況を参考にした管理を呼び掛けた。

●今後の普及活動の課題

1　機械の共同利用の推進

今回制定した「農作業受託規程」に基づき農作業受委託の実績を積み上げるとともに、将来的な機械の共同利用に向け、導入時期等を明確にするほか、大型特殊免許の取得など、オペレーター育成も計画的にすすめる必要がある。

2　新たな園芸品目の導入・検討

今後も米の価格上昇は期待出来ないことから、集落営農組織の活動を継続するためには園芸品目の定着が必要である。また、兼業農家が多いことから出役頻度の低い作物の導入を検討するとともに、新たな品目の導入は、販路を確保したうえで進める必要がある。

3　水稲の安定生産の推進

本年の栽培管理基準田では、水管理等の適正化により単収向上につながったが、地域全体での取組みとなるよう、新たに水管理掲示板の設置など「栽培管理の見える化」に取り組む必要がある。